

日本YWCAの使命(ミッション)
イエス・キリストに学び、共に生きる世界を実現する
世界の人々と共に人権・平和・環境の問題に取り組む

第29総会期主題
平和を実現する人々は幸いである—マタイによる福音書5章9節

- 日本YWCAビジョン2015
- (1) 非核・非暴力による平和を構築する
 - ・ 平和憲法をまもり、世界に広める
 - ・ 市民レベルで東北アジアの信頼関係を築く
 - ・ 女性と子どもの権利をまもる
 - ・ パレスチナYWCAの活動を支援する
 - (2) 若い女性のリーダーシップを養成する

YWCA 3

MAR. 2010

発行所 日本YWCA
〒102-0074 東京都千代田区九段南4-8-8
Tel. 03・3264・0661
【四谷オフィス】
〒160-0008 新宿区三栄町6-12 2F
Tel. 03・5367・1872 / FAX 03・5367・1873
E-mail. office-japan@ywca.or.jp
編集発行人 俣野尚子
振替 00170-7-23723 (毎月1日発行)
定価1部 150円
年間購読料2,200円(送料込)

www.ywca.or.jp

子どもの貧困 —豊かな育ちへの政策転換を



清水澄子

(国際婦人年連絡会(*) 家族・福祉委員会座長、元参議院議員)

*日本YWCA加盟

近

年、親の経済的貧困から、保育料の滞納問題や、給食費及び学習費が払えない子どもが増えていること。高校の通学費が出せず退学していく子どもや進学をあきらめる子どもなどが社会問題として大きく報じられている。

中でも、最も社会的保護の対象であるべき子どもが、病気になるっても医者にかかれないとは、いかに日本の政策に問題があるかを物語るものと言えよう。

大阪府の小学6年生の男の子が「保険証ないねん。先生、湿布しとくれ」を取材した新聞記者の記事から「無保険の子救済キャンペーン」が契機となって、ようやく厚労省が腰を上げた。親が国民健康保険料を滞納したため、無保険状態になった中学生以下の子ども約3万3千人が明らかになる。その後、救済法案が可決したものの、「子どもの育つ権利をはじめ学ぶ権利」はどうか、「生きる権利」が脅かされているのである。

O

OECD(経済協力機構)の「対日経済審査報告書」で、日本の相対的貧困率はOECD諸国中アメリカに次いで第2位を指摘されショックを受けたのは2006年のことであった。同報告書はまた、日本の子どもの貧困率が14%と警鐘を鳴らした。特に日本では母子家庭の就労率が世界の中で最も高いにもかかわらず貧困率は世界一である。また20歳から24歳の父親を持つ子どもの貧困率が急激に上昇している。これは明らかに、若年層の派遣労働や非正規労働の増加と、失業率の上昇の影響といわざるを得ない。ちなみに、OECDで用いられる相対的貧困率は、手取りの世帯所得(収入から税や社会

保険料を差し引き年金や子ども手当等の社会保障給付を加えた額)を世帯人数で調整し、その真ん中のラインを貧困基準とする方法である。つまり、その社会で一番標準的な「手取り」の「世帯所得」の半分以下の生活を「貧困」と定義している。これに対する概念が「絶対的貧困」である。これは労働能力を維持するための最低限の「衣食住」を満たす程度の生活水準以下を指している。発展途上国の飢える子どもや戦後日本のイメージである。

で

日本では、「貧困」はなくなったのであろうか、厚生省は国民生活調査における「低消費水準世帯」の推計を1965年を最後に打ち切っている。昨年(09年10月21日)新政府の長妻厚生労働大臣の指示で初めて日本の相対的貧困率を公表したが、それまで日本政府は貧困の定義や測定もなく、貧困に対する政策は皆無であった。しかも、欧米諸国では日本が推計を打ち切った時期から根強く存在する貧困をなくすための研究や運動が始まっていたのである。

例えば、フランスにおいては出生関連給付に始まり、子どもを対象とした家族手当や、保育手当、新学期の就学年齢の子どもの養育者への支援等々、従来の伝統的家族主義を脱皮し、男女平等政策への転換として家族政策に力を入れている。また、スウェーデンでは「貧困の予防」と所得の均等化を目的とした、すべての人々への家族支援政策を実行している。その観点は、①生まれたすべての子どもの権利としての児童手当の支給、②子どもを持つことが経済的負担にならない税制や、きめの細か

い支援策を配慮し、③ひとり親や障がいを持つ子どもなどハンディーのある家族への特別給付を行い、④両親がともに職業と家族的責任を両立できるように、均等待遇で男女平等を促進する。そして、子どもの扶養責任は政府と社会が担うというものである。

こうした政策をみると、日本の現状は余りに「貧困」に対して無防備であり、無策といわなければならない。親の貧困が即子どもの貧困に連鎖しても、それを親自身の自己責任やモラルの低下として扱ってきた。貧困とは政治で「解決すべき」最優先課題なのである。

貧

困がもたらすものは、人として生きる可能性の制限である。親の経済力により、子どもの可能性と未来が制限される社会は、公正で人間を尊重する社会といえるだろうか。特に日本では子ども個人を人格の主体として政策の中心に据えたためがない。子どもの養育は、あくまで親と家庭の責任であって、子どもの貧困はその周辺の問題として放置されてきた。

しかし、貧困家庭で育つ子どもは身体的・社会的発達や教育の機会と学力に負の影響を受け、家庭や人間関係における疎外感及び就職並びに人生の全生涯にわたって不利益な状況に置かれている。つまり、貧困の世代間連鎖である。子どもが希望を失った国に未来はない。英国のブレア前首相は、子どもの貧困を重大な社会問題として「2020年までに根絶する」ことを宣言した。日本においても、少子化対策ではなく、子どもの豊かな育ちへの政策転換に心を砕き、未来への投資を急ぐべきである。

人的資源こそ 最大の希望

三股まさ子

常任委員として3年間の役割を終え、ほとんどの部分と共に何がしかの寂しさを感じています。価値観を共有した人々との楽しい、充実した3年間の活動でした。

「ひろしまを考える旅」の委員として、昨年39年目の旅に参加しました。一昨年に常設の委員会として位置づけられるまでは、準備から本番までのすべてを自費で賄う委員たちの熱意と意欲に頼っていたわけです。そのような見えないうちでYWCA運動を支えてきた方々を忘れてはならないでしょう。現在は、5名の大学生委員のびのびと中高生をリードして、若者たち手作りの「旅」を感じます。もちろん、それをバックアップするシニア委員の確かな方向性と支えがあって実現していることです。

ファンドレイジングの委員会にも属して、手探りの3年間を送りました。平塚YWCAで、自ら挑戦したこともいくつかありました。そのひとつが、平塚市民活動ファンドに子育て支援「スペースJOY」で申請して、助成金を得たことです。助成金をもらうことで、活動がそれに値するものであるかを常に問う良い機会となりました。

全国のYWCAが持っているネットワークの底力を見た出来事をご紹介します。平塚YWCAでは2004年から6回「ロンドンアンサンブル」コンサートを続けてきました。2004年と2006年には東京YWCA、2008年には札幌・熊本・神戸・京都YWCA、2009年には札幌・熊本・神戶・京都YWCA、60周年記念で函館YWCA、熊本YWCAはYMCAと協力して市民クリスマスとして「ロンドンアンサンブル」を開催しました。中心にいてご苦労された数人の方々はもちろんのこと、各地のYWCAでも多くの議論を経た上でのYWCA間の連携は見事なものでした。

現在、各地のYWCAが大変厳しい状況に置かれていることは事実ですが、それを乗り越えるであろう人的資源を持っていることが私たちにとって最大の希望ではないでしょうか。

(平塚YWCA会長)



1800坪の緑豊かなまきば幼稚園園庭

子どもの居場所

YWCAは、一人ひとりがあるままに受け入れられ、子どもたちが本来の力を発揮できるようにとの思いを込めて、さまざまな事業・活動を実施しています。今回は、東京YWCAまきば幼稚園と大阪YWCAシャロン千里子ども館の活動を紹介します。

子ども自身の伸びる力を

東京YWCAまきば幼稚園

東京YWCAまきば幼稚園があるこの園は、調布市の保存樹もあり、四季折々に自然の美しさを感じさせてくれます。木が緑豊かな大木に育っていくのは、その木がしっかりと大地に根をはっていなければなりません。木の葉と枝と幹は目に見える部分ですが、私たちの目に見えない部分である根こそ木の生命なのです。人も木と同じです。人の根の部分というのは、性格や人格といわれる、その人のものの感じ方や考え方の部分にあたります。私たち人の心や気持ちというのは、木にたとえれば、目に見えない根にあたります。そして、この心の根のいちばん大事な部分は、幼児期につくられると言われています。物事の感じ方や考え方の基礎が形づくられる時期に、どんなことにも立ち向かっていけるよう強く太い根を、一人ひとりの子どもたちにつくってほしいという祈りと願いをこめて、保育に携わってきました。その根っここそが、生きる力につながってゆくのです。

まきば幼稚園の子どもたちは、この自然と共存しながら園生活を満喫しています。かなへびを捕まえたり、カブトムシの幼虫やだんご虫を見つけたりしながら、泥んこになって目を輝かせて遊ぶ姿は魅力的です。子どもたちの遊びはダイナミックで、次から次へと遊びを見つけ、友だちと工夫しながら展開させていきます。まさに遊びの天才で

あると感心します。また、絵画・陶芸・リトミック・園芸などの課題遊びを取り入れて、見て・聞いて・触れて・感じる体験を大切にしています。特に絵画・陶芸はどの子どもも楽しみながら意欲的に取り組みます。描くこと、創ることにおいて、テーマは同じであっても、個々の持ち味や個性が発揮されて、その子らしさがあふれた作品が次々と上がってきます。これらの活動を通して、表現力や豊かな感性が育ちます。日々の保育においても、子ども自身が自分で考え、気づいて行動できるように、さまざまな場面で伝えたり、話し合ったりすることを大事にしています。そうすることで相手の気持ちを考えられるようになり、思いやりや協調性が培われていくのです。

「大切なのは、植える者でも水を注ぐ者でもなく、成長させてくださる神です」(コリント信徒への手紙I 3章7節) 神さまの愛は、いつもどんな時にも一人ひとりの子どもに注がれています。私たち大人は、子どもたちがその子らしくしっかりと歩んでいけるように、受けとめ、見守り、そして子ども自身の伸びる力を信じて待つことではないでしょうか。これからの一人ひとりの子どもと向かい合い、個々の成長発達を大切にしたい保育を心がけていきたいと思っています。

東京YWCAまきば幼稚園園長 来間聖子

不安でいっぱいだった初めての子育て

「私はぶどうの木、あなたがたは其の枝である」(ヨハネ15章5節)。これは私の通った幼稚園の名前の由来となっている好きな聖句の一つです。まきば幼稚園の自然あふれる裏庭と大きな木々を見た時にこの聖句が浮かび、どこか懐かしさを感じました。不安でいっぱいだった初めての子育て、幼稚園選びでしたが、ここなら一緒に子どもを育てていけると思えました。

同じ椅子に座って同じ目線で迎えて下さいました。長男は好きなことに長時間集中できる反面、大勢の友達と自ら進んで交わることが少なかったのが最初は心配したこともありましたが、しかし「それが本人のペースです。一緒にゆっくり見守りましょう。なぜ?と質問するよりもまずは共感してあげましょう」という先生方のアドバイスに心が落ち着きました。ありのままの姿を良い所として受け止めてくれる、きめ細やかな保育はとても安心でしたし、どんな些細なことでも相談でき、共に悩んで下さいました。学年が上がると絵画や園芸・陶芸など新しい課題も増え、絵画では集中力を育てていくと共に、まきばの自然を描く

ことで、命あるものの形を描くこと、否定されない安心感の中で描くことを学びました。親子で一緒に裏庭の大きな木を描いたり、家から園までの道のりを描いていく課題では絵の苦手な私にとっても幸せなひとときとなりました。まきばでは人生において一番大切な根っこの部分を十分に育てていただいたと思います。

卒園して6年以上経つ今でも2人の息子が、庭にやってくる鳥を楽しみにしている様子はまきばの頃と変わりません。すべてを吸収する柔

らかな安心できる「居場所」になるように、日々努力しています。

そして2010年度は大阪YWCA青少年部や子育て支援委員会とのきずなを深め、さらには地域の保育所・小学校ともつながっていければと考えています。「つながり」は力、「つながり」は希望です。

大阪YWCAシャロン千里子ども館館長 辻川さとみ

まきば幼稚園卒園生保護者 吉崎浩子

つながりは力 つながりは希望

大阪YWCAシャロン千里子ども館

シャロン千里子ども館がある千里ニュータウンは、1960年代初頭に開発されました。府営住宅・一戸立て住宅等が地区ごとに区別して建てられ、住む場所によって、およその収入がわかるといういびつな地域でした。それでも、時代は高度経済成長のまっただ中で、街には希望があふれていました。

半世紀が過ぎ、老朽化した団地の建て替えが進み、高層マンション群が新たに建てられ、街は第二の誕生の時期を迎えつつあるかのようです。しかし、時代の閉塞感ともあいまって、寒々とした風が吹いているように感じられます。

「マイホーム」という言葉によって個人主義が生まれ、地縁血縁関係が薄れ、地域活動への

参加を敬遠する雰囲気が漂っています。そんな今、そんな街だからこそ、つながりを求めているお母さん、見守りが必要なのどもたちが確かにいるのです。

希望学を提唱する東京大学社会科学研究所の玄田有史さんは「希望の有無は収入や健康、人とのつながりのあるなしに左右される」と述べています。経済的な厳しさが増す今だからこそ「人とのつながり」をさらに太くしていく必要があります。

子ども館では、2009年度「つながり」をテーマに二つの事業を始めました。ひとつは朝日新聞厚生文化事業団からの助成を受けた「子どもへの暴力防止プロジェクト」。もうひとつは保育所に通う親子を支援する



「ハンドインハンド」です。具体的なプログラムの中身は親子体操と食事会ですが、共通するエッセンスは、親子ともに安心できる場を提供することです。

人は本来「自ら育つ力」を持って「人となつがる力」を持っています。子ども館に集う誰もがその自分の内にある力を発揮することができ、新たな「つながり」が結べるように。子ども館が地域の誰にとっても明るく

暖かな安心できる「居場所」になるように、日々努力しています。

そして2010年度は大阪YWCA青少年部や子育て支援委員会とのきずなを深め、さらには地域の保育所・小学校ともつながっていければと考えています。「つながり」は力、「つながり」は希望です。

大阪YWCAシャロン千里子ども館館長 辻川さとみ

中高YWCA顧問総会・研修会報告 キリスト教学校における 多文化共生教育の今

09年12月26日(土)から28日(月)、第41回中高YWCA顧問総会・研修会が、福岡女学院および日本キリスト教団福吉伝道所で行われました。テーマは「キリスト教学校における多文化共生教育の今」で、参加者は28名でした。



(種)

イエス御自身が彼らの真ん中に立ち、「あなたがたに平和があるように」と言われた。(ルカによる福音書24章36節)

イエス・キリストは自分神の子であると言い、また多くの人の心と体の傷を癒やしましたが、当時のユダヤ教の祭司たち・律法学者から激しく訴えられ、民衆は「十字架につける」と叫び続け、弟子のユダヤベテロさえもイエスを裏切ったのです。権力者のピラトはこの勢いに負け、彼らの好きなようにさせてしまったので、イエスは他の犯罪人二人と一緒に遂に十字架にかけられてしまいました。
殺されたイエスは議員ヨセフの手によって墓に収められました。ガリラヤから来た女性たちが安息日の翌日墓に行きましたが、既にイエスの遺体は消えていました。天使が現われイエスの復活を知らせました。エルサレムでシモンその他の弟子たちにも姿を現わされたことが聖書に記されています。イエスは「私の言葉を信じ、私に従うものとなりなさい。私はいつもあなた方と共にある。平和があなた方にあるように」と最後の言葉を残しました。

争い・天災・経済変動・憎み合い・人殺しは今日も続いています。復活節が近づきました。復活されたイエスが今、私共の中に居られることを私は信じています。この尊い宝の恵みを忘れたくありません。日頃から自分のことだけを考えないで人の役に立つよう自分の役割(使命)を見つけて暮らしたいのです。私たちは一人ぼっちではない。復活されたイエスが共にいて下さり、よい友達が与えられていることは何と幸せなことでしょう。

奥田道子(東京YWCA会員)

1日目は福岡女学院を会場に中高YWCA委員長の郡司啓子先生(横浜共立学園)の開会礼拝に続き、京都YWCAのAP.T (Asian People Together) のメンバーによる講演があり、「多文化共生」プログラムの実践報告と実際の教材から、参加者で考え話し合うワークショップもありました。その後、北星学園女子高等学校の小島治子先生と日本YWCA会長の俣野尚子さんからの発題。小島先生からは、YWCAの活動の中から障がいをもった人と一緒に列車やバスで日帰り旅行をする「ひまわり号」、おもちゃ図書館で

の活動、水保病への取り組みなど、「外に出ることの大切さ」についてお聞きしました。
2日目は午前講師の犬養光博牧師が牧会をされている、筑豊の福吉伝道所の日曜礼拝に出席し、教会の方と交わりの時をもち、午後から田川炭鉱のフィールドワークに出発しました。石炭博物館・韓国人徴用犠牲者慰霊碑・ムグンファ堂：1940年代半ばまでの炭鉱には、多くの朝鮮人労働者が強制連行され劣悪な条件で働かされていました。危険な仕事で命を落としても葬ってもらえずに、仲間がダ

ンボール箱に骨を入れ、お寺に預けたものが後に見つかり、現在は納骨堂に安置されているところも見学しました。また、名も刻まれていない小さな石の下に朝鮮人労働者たちが眠っている日向墓地を訪れ、朝鮮半島に人の正確な人数すらわかっていない、ここにも戦争の大きな傷跡があることを知りました。
夜は福吉伝道所で、犬養牧師より、40年以上にわたり、筑豊で牧師をしながら取り組んでこられたこと、カネミ油症被害者のために月に1回カネミ倉庫の

前での座り込み、人生の師とされている上野英信さんのこと、在日大韓基督教会の故崔昌華(チェウチャンファ)牧師のことなど本当にたくさんのお話を聞き、まだまだ知らないことの多さを実感しました。
特に崔牧師とのことで、一緒に泊まる機会があったときに「親しくても日本人とは一緒に寝ることができない」と言われた話が印象的でした。それは関東大震災の際、それまで親しくつきあっていた日本人が朝鮮人を暴行・虐殺したことから、日本人は信用できないといううぬぐいられない思いからなのだそうです。私たちの側からすると、昔のこ

とと思ってしまいかもしれませんが、忘れてはいけないことなのです。
3日目は顧問総会で、俣野会長が1日目に発題されたことを受け、加盟校・加盟費について話し合いをしましたが、その中で私たち中高YWCAと日本YWCAとのつながりの大切さを感じました。閉会礼拝は郡司先生からのメッセージで希望をもって会は閉じられました。
プール学院中高YWCA顧問 松原恵美子

ひと時の交流

北京YWCAと東京YWCA

北京YWCAと東京YWCAの短い交流プログラムが行われたのは2009年11月25日のことでした。北京YWCAから「北京YWCA理事訪日交流団名簿」が届き、短い時間ですが東京YWCAとぜひ交流がしたいとの希望でした。心待ちにしていたところ、4泊5日の日本観光のスケジュールが送られてきました。その中で、東京滞在は1日のみで、その半日は観光と忙しいものでした。

よると皆さんは退職教員や医者・技術者・牧師・研究者などでした。この一行の年齢は高い方々でしたが、パワーポイントで紹介された北京YWCAの活動は、多岐にわたっており、若い人々があふれる映像でした。
日本からは東京YWCAの幹部委員をはじめ会員とスタッフ、中国に数度にわたって介護職員養成支援に出かけた専門学校教員、北京YWCAと交流の深い愛恵福祉支援財団の役員、日本YWCA会長・スタッフなど30余名が参加者しました。

歓迎の挨拶、贈り物の交換が続き、遅い昼食をいただきながら和やかな交流が続きしました。言葉の壁を取り除くために、今回はいつも中国語の通訳してくださるルーテル学院大学の張琦(チョウキ)さん、東京国際福祉大学大学の徐輝(ジュヒ)さんに協力して

いただきました、楽しい会話が飛び交いました。
YWCAという一つの輪の中に繋がっている仲間は、初めて出会ったのも思いを共有する喜びを感じる事ができます。どのような教育を受けてきたのか、どのようにしてYWCAの精神や活動にコミットしているのか、もし言葉がわかれば、もっと時間があれば、もっと大きな喜びと共感を得ることができるとは思いませんか、「神ともいまして」を中国語と日本語で賛美しながら旅の安全を祈ってお別れしました。

東京YWCA 遠藤久江



世界YWCA機関紙『コモン・コンサーン』 (日本語版・英仏西語版) 年間購読受付中!!!

世界125カ国・地域のYWCAが共通に取り組む課題を取り上げ、問題を解決するために発揮される、女性の知恵と力を紹介します。メディアではなかなか伝えられない情報に、ぜひ触れて下さい!

発行：年3回
年間購読料：日本語 1,000円(送料込み)
英仏西語 船便3,000円・航空便5,000円(送料込み)
申込期間：日本語版は年中受付、英仏西語版は2010年3月末日まで
お問合せ：日本YWCA





★ パレスチナの平和のための 全国一斉サイレントアピール ★



神戸

2009年11月の全国会員総会にて、大阪YWCA国際部の一委員が「イスラエル軍のガザ侵攻1年を覚え、その被害者に思いを寄せ、全国一斉のサイレントアピールをしませんか」と呼びかけました。人々の関心が遠のいている今だからこそ、パレスチナに平和が訪れるように、日本からパレスチナに連帯の気持ちを届けたい、というのが今回のサイレントアピールの趣旨でした。

呼びかけに応え、多くの地域YWCAからご連絡がありました。東京で12/29、大阪・名古屋で1/7、京都で1/9、神戸で1/14、沖縄で1/16、各地域YWCAで、あるいは他団体とのジョイントで、サイレントアピールや集会が行われました。直接街頭に立てなくても、多くの方がそれぞれの場で心を合わせてくださったと思います。

アピール後「これからも無理のない範囲でできたらいいね」、「全国でパレスチナに関わる具体的なアクションを生み出していきたいね」などのやりとりがありました。地域YWCAが自主的に連絡を取り合い、パレスチナに平和をという課題に、さらに新たなアクションを生み出すことができれば、と願います。

大阪YWCA職員 宮崎祐



名古屋



撮影・豊田直己



大阪

昨年12月26日日本YWCAも主催団体に加わり、東京・築地本願寺で開かれた「ガザ攻撃から1年ーパレスチナに生命の光を!」の集会は、古居みずえさんの映像やお話の後、本堂前の広場に竹筒に灯したキャンドルで「FREE GAZA」が描かれ、キリスト教・イスラム教・仏教の人々によるメッセージの後、200人余の参加者で黙祷の時を持ちました。=写真上

緊急国際協力募金 ハイチ大地震被災者支援

2010年1月12日、マグニチュード7.0の巨大地震がカリブ海の国、ハイチを襲いました。この地震で約300万人が被災し、死者は20万人に上ると予想されています。最大被災地の首都ポルトープランスでは、電気・水道・電話など、生活に必要なインフラが崩壊し、推定30万人が路上で避難生活を強いられ、国連事務所を含む、多くの建物が被害を受けています。また地震後、救援物資の配布の遅れなどに一部市民が激怒し治安の悪化や混乱状況にあることが報じられています。

世界YWCAはハイチの人々に連帯と哀悼の意を表明し、緊急支援と長期支援をスタートしました。日本YWCAは、世界YWCAと連絡をとりながら被災者支援募金を実施します。皆さまのご協力を心からお願ひ申し上げます。

- 緊急募金期間：2010年3月31日（水）まで
- 募金振込先：郵便振替 00170-7-23723 「財団法人 日本YWCA」
*通信欄に、緊急国際協力募金「ハイチ大地震被災者支援」とお書きください。
- 問い合わせ先：日本YWCA



創立60周年 地域に活用される 場として

函館YWCAは創立60周年を記念して、英国を拠点に活動する「ロンドンアンサンブル」のコンサートを11月28日の午後、230名ほどの入場者をお迎えして開催しました。

会場は1949年10月15日に発会式を行った遺愛学園講堂です。貴重なヴォーリス建築のひとつで、地域文化遺産でもあるこの講堂は、60周年を祝うコンサートに最もふさわしい場所でした。学園からは惜しみない協力をいただきました。フルート、ピアノ、バイオリンそしてチェロのアンサンブル

ですが、中心的存在のピアニスト松村美智子さんが、公演2日前に急病で入院されたとの報に慌てました。幸いにも穴澤ひろみさんが交代して下さり、曲目を少々変更しただけで、無事に開催できました。望まれる以上の成果を収めた本場に素敵なひとこと

きでした。メンバーの方はソロやいろいろなアンサンブル演奏を披露して下さい、観客の方々からはたくさんの賞賛の言葉が届けられました。すばらしい音色に魅了された



後、夕闇迫る帰路は、校門傍のクリスマスツリーがまばゆく照らし、折りしも街で行うイベントの花火が上がります、まるで祝福を受けているようだった、と会員の間でも話題が盛りあがりま

した。この節目の年を迎えて、一人ひとりが今まで以上にその役割を担っていかねばならない、気持ちを引き締めました。世界中に繋がる大きな会員運動を常に意識しつつ、ここ函館の人々との交流を通して、地域の方々に広く活用される場として存在していく道を模索しています。夢や課題はたくさんありますが、まずひとつは、60周年記念募金を元に、築80年を越えている会館に少し手を加え、利用できる場を増やしたいという現実的な願いです。

- 二協力ありがとうございます
- 賛助費(以下敬称略)
- 中尾廣美 平田康子 大見川昭子
 - 関 宮子 本橋育子 伊藤真智子
 - 小原尚子 塩見志保 岡野フミ子
 - 松田和子 齊藤純子 田中美紗子
 - 安田寛子 米原静子 勝見ふじ子
 - 山峯祥子 吉田瑠都 荻川光郎
 - 都木恵子 西島 黎 本田恭子
 - 宮内貞子 浦和YWCA
- 平和教育資金
- 実生律子 東京YWCA
 - 日韓ユースカンパレンス実行委員会
- オリブの木募金
- 赤崎眞子 田中倍子 富山静枝
 - 塩見志保 中島 睦 都木恵子
 - イエニツクふたみ
- 平和の子保育園 女子学院宗教部
- 日本基督教団千葉教会
- 大阪YWCA大宮保育園
- 大阪YWCAシャロン千里
- 東京YWCA聖書を読む会
- 静岡YWCA 札幌YWCA

- 福島YWCA 広島YWCA
- 新潟YWCA
- パレスチナYWCA支援募金
- 富山静枝 大阪YWCA
- アジア太平洋地域被災者救援募金
- 函館YWCA 長崎YWCA
- 静岡YWCA 札幌YWCA
- 湘南YWCA 釧路YWCA
- 熊本YWCA 大阪YWCA
- 弘前YWCA 新潟YWCA
- 第30回全国会員総会日曜礼拝 匿名
- 緊急国際募金
- 東京YWCA 2009/12/9 Christmas for Peace会場募金 広島YWCA
- 国際協力募金
- 芦川浩 平塚YWCA
- 静岡YWCA
- 国際協力相互援助募金
- 浦和YWCA 仙台YWCA
- クリスマス献金
- 中村紀子 関東学院中学校高等学校
- 玉川聖学院 とわの森三愛高等学校
- 生徒・教職員 宮城学院中高等学校

- 遺愛女子高等学校 YWCA部
- 普通工学園中学校高等学校
- 日本キリスト教団松沢教会婦人会
- 日本キリスト教団ひばりが丘教会
- 日本キリスト教団千葉本町教会
- 日本基督教団経堂北教会
- 浦和YWCA 新潟YWCA
- 静岡YWCA 福島YWCA
- 浜松YWCA
- 一般寄付
- 唐崎旬代 実生律子 仁科謙太郎
 - 石川松子 高橋野枝 横山由美子
 - 松田和子 鹿野幸枝 堀内香代子
 - 万年 禮 鈴木伶子 池上三喜子
 - 「火と雲の柱に導かれて」キリスト教研究会「東京YWCA有志一同
 - ファンドレイジング委員会
 - ひろしまを考える旅委員会
 - 日本YWCA運営委員会
- Y's Wonderful Women賞
- 多くの皆様のご協力をいただき、感謝申し上げます。
- (2010年1月20日現在)